Ⅵ　各部会研究　事前研の総括～本時案

１　図工小学校低学年（３年）授業について（６月）

ねらい:「ペットボトルを使って色水をつくる活動をした子どもたちが、色水ペットボトルを並べたい場所を選び、その並び方や色の配色を考えて置く活動を通して、作品が場所に働きかける変化や美しさをとらえることができる。」

【良い点】

・１年生の廊下にならべたH さん。はじめは、黄色のペットボトルを密集させて置いていた。友だちと、「ばらばらに置いた方がきれいじゃねえ」と話す中で、「このくらい、スペースを空けた方が」と黄青黄青と間隔を開けて置きはじめ、そこから活動が加速していった。同じくらいの間隔でリズムよく置いていく心地よさを感じていた。低いペットボトルを使うなど、ペットボトルの高さにもこだわりをもっていた。

通りかかったD さんが「青黄色青黄色…いいね」とつぶやきながら、歩いていった。色が連続する気持ちよさを共有していた。

自分たちの取り組みにより、他の子に喜んでもらえる図工と子ども達の生活とつながる活動の広がりが良い。

色の組み合わせ、高さ、間隔にこだわり、その規則性を楽しむ姿は今後の題材展開につながっていく。

・緑廊下にならべたE さん。自分で選んで持っていった黄、青はとてもこい色だった。色に対する本児のこだわりがあった。緑廊下に友だちと行ってから本児は、同じ緑のペットボトル横にセットのようにまとめて置いた。緑を集める、緑が集まるというイメージをもっていたのだろうととらえられた。発想、構想の視点から色に関わる思考、判断、表現が発揮されていた。

・最後に写真を見ながら、鑑賞の時間を設けたことはとてもよかった。

・さあ作ろう！とスタートすると、「黄色と緑！使おう！」とかけ出す子ども達から、わくわくして作りたい！やってみたい！という気持ちが伝わってきた。子ども達の中で、色に注目したり、形や並べ方に注目したり、いろいろ考える時間になっていた。

・廊下の緑色、青いライン、下駄箱の枠などに反応して、色の並べ方、置く間隔などを決めだして表現している姿が良かった。H さんはPTA の下駄箱で、一人で置くバランスをずらしながら並べていた。

・置く場所が広かったので、細かい配色まではいかず、それでも大雑把な配色のルールが見られて良かった。翌朝以降に見たとき、更に並ばせ方等を工夫していけるのではないか。

・同系色を並べる美しさに気づいた子（特に女子）が多くて、校長室前廊下などは美しかった。昇降口も他の子が、「何かちょっとオシャレになってる！」と感じていた。

・全力で色を選び、自分が持てるだけのペットボトルを運び、考えながら並べている様子から、変化や美しさを楽しみながら表現していた。色にとても興味を持っている子ども達なので、今回と違った発見（表現）をしていくきっかけになるとよいと思う。

・途中で、１年生の時の「道の花だね」といって楽しそうに廊下を歩いていて、子ども達が色や場所からイメージを作り上げていて、すてきだと思った。ペットボトルの色水の種類の多さにも発想力や表現力の広がりを感じた。

【課題】

・個＜集団のイメージによる活動が見られた。個＞集団にしたい。

・学習問題→学習課題という流れが必要。どのように並べるか、どのようにきれいにしていくのか、その場所に並べたらどうなるかなどをおさえてから活動に入ることで、ねらいに達することにつながる。

・学習カードを使わない代わりに、黒板の板書をでまとめていく。

色水→場所　場所→色　それぞれのイメージの持ち方を担任が理解するためにも課題を明確にすることが必要。

・緑廊下に緑と黄のペットボトルを等間隔かつ交互に置いたD さん中心の子ども達。黄と緑の配色はどう決めたのかは？廊下のはじに等間隔で置く子ども達が多かった。光があまり当たらないところが多かったので、色水と光が合わさったときの美しさを求めるよりも、置きたい場所を優先して「～ために（～がいる場所に）置きたい」という思いが強かった。光が差し込む状況などだんだんとイメージできると広がりや色の透明感が生かされてくる。昇降口に置いたペットボトルに光が差し込むときにみんなで見に行ってみる。廊下の下から窓わ

くに上げてみると、さらに色の美しさが感じられると思う。今回は、自分たちの色を民に見てもらいたいという感じだった。その色をより美しく見せる場所やタイミングをこれからみんなで探して共有するととても楽しいと思う。他学年の子がここのペットボトルきれいだよとか紹介しあえると次につながる。

・並べる活動の過程そのものに本時の活動の価値があると思うので、作品が場所に働きかける変化や美しさをとらえるのは次時のねらいでよい。

・どうして、そのように並べたのかの理由を問う場面で、並べるときの観点（色、間隔、ペットボトルの大きさや数）を示してあげると、より理由を説明しやすくなる。

・図工室に一旦戻るときに切れてしまう感じがした。あらかじめ構想した場所に、その通りに置いてという感じ、今回はここで終わってしまった感じ、問い返しがほしかった。その中で、１年生の廊下に黄色のペットボトルを混んで置いていたＨさんに対して、「混みすぎ」「ばらばらに置いた方がきれい」と考えが出たところが良い場面だった。こうした姿が沢山生まれることにより、「つくり、つくりかえ、つくる」という造形遊びの動きがでてくると思うので、場所の限定やペットボトルの置き場所、運搬方法等、工夫したい。

・自分たちでつくったきれいないろんな色水のペットボトルをどこにどう並べるかというところが題材の核だったと思います。活動の中で子ども達は、いろいろな気づきを友と話しながら言葉にしていた。「ちょっとつめすぎかなあ」「このくらいスペースを空けたほうがいいんじゃない」（並べ方）、「青かわいい！」「この色ちょっとちがくない？」（色）、などなど。子ども達の中で意識して出た言葉ではない。「この色のペットボトルをこう並べたい！」という願いがあるわけでもない（？）のではないかと思う。授業の最後のふり返りからもそうかと思う。では、どうするか？子ども達の気付きの良さや活動の良さは教師の言葉がけで返していく必要がある。子ども達に気づかせたいことは何か、学ばせたいことは何か、整理していくと良いと思う。

・この時間が図工の見方・考え方の貯金になるように、子ども達からの言葉で、色、形、並べ方の言葉を引き出すと迷っている子にも次につながっていく。

・一人一人が自分の思いついたこと、気持ちのよい並べ方をまわりに影響されずに表現できるとよい。

・場所が散っていたため、また一度に沢山のペットボトルを運べないため、（せいぜい一人４～５本）「見比べる」「違うものを試す」「じっくり味わう」まで行かないうちに次へ次へといそがしくなってしまった点がとても残念だった。せっかくの材が少し、もったいないかなと思う。自分のつくった色水へのこだわりが強いのはわかる気がする。

・その１時間何をするか→その１時間で何ができるようになるか　そのために何をするのか　どんな手だてが考えられるかへ

本時は「色」「配色」からどんなイメージをもつか。さらに、どんなイメージを目指して並べ方（配色）や色を選ぶかが大事。授業の導入からまとめまで、そこを追求できる手だてが必要。一人一人の学びを保障する。

どこにどんな色を並べたいかをはじめから、はっきりしている様子にしたい。

①導入で「色」「配色」そこから受けるイメージを扱う。「○○さんはどこでどんな色にならべたい？」

②一人からはじめて、その後自然と一緒に行ったり、また一人にもどったりする。一人一人が発想し、取り組めるように。拍手する人と、作業する人ではなく。

③色、配色とイメージを自覚できる、引き出せるような問い返しをする。「どんな感じがする？」「どうしてこの色にしたの？」

④まとめも③を全体でする。「○○さんはどこでどんな色に並べた？」「どんな感じになった？」

・とても楽しい授業でした。日常生活で使う「場」に子ども達自らが色を選び並べるには、それぞれの「場」に対する、または色に対する「ストーリー」があると思う。その子ども達のストーリーを（並べている最中に）聞けると面白いと思う。

・作品が場所に働きかける変化や美しさをとらえる」ということをどうとらえていたか、どんな姿があればとられることができたのかを子ども達のふり返りや活動している姿の中でとらえることができると良かったと思う。場に応じてでは、色や大きさ、配置などの工夫をしていた。美しさについては、「私の好きな色だから」「だいたい、なんとなく」など場所に働きかける言葉が出ていなかった。校舎を美しくしたい。デザインしたい。すてきなことなので、是非、広げて深めてほしい。

・それぞれの子ども達が、それぞれの個性とその子らしさが発揮されていて、自分の方法で自分の答えを出す図工で育つ子ども達だと強く思った。先生が、「なかよく、ゆずり合う、けんかなく」と約束するほどに、子ども達は、たくましく、時にはぶつかることも恐れずにできる子ども達だと思った。

そこで、今は、子ども達をほめること「よくここに置くことに気付いたなあ」「こんなふうに置くのをよく考えついたなあ」など勇気づけることをとにかくするといいと思った。先生に対する信頼関係がますます深まると思った。

その子の考え（今回でいうとふくらませたイメージ）を聞くときの言葉を研究すると、いろいろな教科、授業に生かすことができるかなと思う。「なぜ」「どうして」のほかに、「どんな感じにしたかったの？」「こんな感じにしたかったの？」など。

色水ペットボトルを置くだけで、その場が豊かに感じられてくるよい題材に取り組まれた思った。

２　図工小学校高学年（６年）授業について（６月）

ねらい：「教師の制作したコマどりアニメーションを視聴した子どもたちが、コマどりアニメーションの仕組みを知る場面で、コマどり動画の仕組みやタブレットの操作方法を理解したり、ペアで協力しながら「おもしろさ」を考えて撮影を試したりすることを通して、コマどりアニメーション作りに興味を持ち、意欲的に活動に取り組むことができる。」

【良い点】

・N さん達のグループ。ペアの関わりがとても良かった。表現活動を支える学級づくりがとてもうまくいっていることを感じた。筆箱という限定した設定が子ども達の発想を後押ししていた。

・導入から子ども達がわくわくする姿があった。コマ撮り動画の編集について方法もわかりやすく、簡単にできるところが抵抗感なく活動できる力も意欲的に取り組めるところにつながっている。達成感もあった。ICT の活用が苦手な子ども達にとっても今回の授業をきっかけに自分でも今度こうやってみたいという思いがもてた。

・仕組みや操作方法はスムーズに理解しているように見えた。一人では困る場面もペアの子が教えたり、操作したりすることで解決していた。

・R さん、S さんペア。S さんは、導入時から目をかがやかせていた。筆箱を材にしていったり、キーボードを取り入れたり、材への意識から瞬時に撮っていくことで、数多いほど面白くなっていくことにも気づいていた。「つながらないようにするのがいいのかも」と言っていた S さん。彼の発想、感覚が生きる題材であり、とても意欲的な姿だった。

・ペアの協力、興味、意欲などとてもよかった。Y さん、T さんペアは、T さんの長いお話のようなアイディアを Y くんもサポートしてすばらしい合作となった。T くんの反省コメントには、「リアルな動き、生きたような動きを付け加えることや空間や間をうまく利用できた。」とあり、まさにその通りの作品になった。

・次々と楽しいアイディアを生み出している児童が多く、まちがいなく意欲的に取り組んでいた。

・プリントが配られたら「ありがとう」、発言には拍手など、日常のすばらしさが今回の授業を支えていた。導入の端的な入りと子ども達の興味の持たせ方などとてもよかった。筆箱の中身にしぼったこともアイディアの広がりを生んで有効だった。N さん、F さんペアで、機器の慣れや二人で関わることによってアイディアがどんどんふくらむところ、二人はあひるのクリップが、はさみに追われ、切られそうになるところを間一髪でにげるというストーリーを表現していた。発想、構想のふくらみが制作を通して見られた。

・動画にする前にスワイプで確認しながら進めているところなど、子ども達がだいぶ使いこなせているように感じた。毎日使っていることが見て取れた。是非、続けていってほしい。

・子ども達の気付きの良さや活動の良さは教師の言葉がけで返していくことができていたので、次々に子ども達の思いや願いが広がっていった。教師が用意した「実際に動いて見える」おもしろさ→仕組みを知りたい→どんな作品をつくろうかなという流れがとてもスムーズで子ども達の思いそのものだった。なぜこういう授業ができるかというと、授業者自身がこの題材を一番面白い！と感じている！ということ。子ども達が作った作品を誰よりも楽しんでいたのが授業者でした！それが今回の授業のすべて。とてもすばらしい授業。大会の本番も楽しみ。

・中間鑑賞の位置づけが良かった。

・初めてでもタブレットであれこれためしているうちに子ども達はイメージを広げることを改めて学ぶ機会になった。コマ撮りアニメわくわくします！手順やワークシートもわかりやすくて、参考になった。

・制作の手順をすばやく理解し、ペアで助け合って表現する姿がすばらしかった。

・導入の児童の「わっすげえ」で「これやりたい！」にすぐ意欲につながった。どう撮るとおもしろくなったり、わかりやすくなったりするかを体験の中で感じながら見出せていた結果、まとめの時間で「コマを多くする」

「動かさない（固定）」「動きを細かくする」というポイントに気付くことができた。他所のコマ撮りからも一瞬で学んでいた様子で、次時から更にいろいろな工夫ができていくと思う。K さんがペアの R さんにアドバイスしたり、「もうおもしろすぎる！」ととても楽しそうで、主体的でした。

・本時の短い時間で子ども達がアニメーションを作ることができるのを見て、その技術の身に付け方の速さを感じた。

・授業時間いっぱい工夫しながら活動していた姿が印象的。タブレットの操作を覚えると作品がどんどんできる楽しさがあると思った。

【課題】

・一人の子が思いついたことを言葉にすることなく、どんどん写真撮りしていて、ペアの子が入る余地がなかった。しかし、その子も「面白い」と口ずさみ作ることに興味を持っていた。その子の意欲を制作につなげたい。

・昨年度からの新しい学習指導要領による評価の観点からすると、どのような視点から意欲的な活動にするのかということが明確になっていると更に深まった。コマ撮りアニメのおもしろさについて導入でうまく位置づけて下さったので、そのおもしろさに向けて制作を進めているかというような観点で意欲を評価しても良いのではないかと感じた。

・制作時間を保障することができ、思考錯誤することができたが、タブレット操作に慣れていない子は、保存やフォルダを見つけるのにつまずく姿が見られた。教師の参考作品を見た後に、どんな動きが他にできそうかもう少し考えて、制作に入れると良かった。また長机に大きなキーボードやファイルがあって作業場所がせまいことが残念だった。もっと広い教室で床も使えるなどしたら制作しやすくなるのではないか。最後に確認したポイントが次回の授業にどう生かされるかが楽しみ。ペアだけでなく、他のグループとも話がｄ家いるとよい。左ききの子は、右側の席の方が操作しやすいのでは？

・動き方について、学習課題やふり返りで、子ども達の言葉で語ることで、次への見方・考え方のヒントになると思った。（例：逃げている感じ、食べられる、飛ぶ…キーワードを沢山つくるイメージで）

・指導事項を確認しながら、目標が高くなりすぎることなく、アニメーションづくりを一人一人が楽しめるとよい。

・何もない状態から増やしていく映像が多かったが、一部減らしていく動きも出ていたので、どちらが有効か試しつつやれるとよい。

・方法を学ぶためのペア学習は良かった。何もしない子もいて残念。ものを操作する人が発想し、撮る人は撮るだけにならないように。自分の発想を作品にできるように。

→いくつか試しながら、すこしずつ主題（例：筆箱の中に閉じこめられたものが急いで逃げていく感じ）が生まれたら、制作は一人ずつになるといい。全員が発想し、広げ制作できるように。ペアは助け合い（例：もっと急いだ感じにするにはどうしたらいいだろう。操作の仕方がわからない）を残すくらいで。

・視点を持たせる鑑賞。主題→表現の工夫　要素（もの・数・速さ・距離、レイアウト、変化…）

・図工として見たとき、コマ撮りアニメーションのすばらしい作品や参考になる作品の一部でも鑑賞してその楽しさやおもしろさにひたる時間的経験があっても良いと思った。

・中学でもアニメーション動画で制作する学校もあるが、なぜ６年の今、コマ撮り動画の学習なのか、どんな力をつけるのか、小中の図工→美術のつながりの点でも題材の目標を考えられると、学習面の中１ギャップが少なくなるのではと思った。

・今回の授業ではコマ撮りの仕組みが理解できたと思う。カメラ固定、沢山の写真など技能や知識に結びついたと思う。先生が「おもしろさ」というキーワードを何度か言っていたが、そこを深めると、思考力、判断力、表現力につながると思う。コマ撮りだからこそのコマ撮りしかできないおもしろさを子ども達がわかると「おもしろさ」のコマ撮りになると思う。

動画やビデオ撮影とコマ撮りのちがい。動くはずのないものが動く。瞬間移動する。などなど。

今回は知識技能と、思考判断力が子ども達の中ではまざっていたかなと思う。

・「コマ撮りのおもしろさ」を子ども達はどう考えているか、又は先生はどうとらえていたのか？コマ撮りをするとどんな良さがあるのか？作る価値にもつながるので、そのあたりにも触れていけると良いと思った。子ども達は、「おもしろく」なるように、撮影回数、動き方、撮り方など工夫していた。作品共有の時、先生が「いいよねー」と言っていたが、子ども達に「何がよいのか」「どういいのか」尋ねても良かったかも。一人一人良さ

の思い、感覚が違うと思うので。

３　その他　小学校１１月公開に向けて（ご意見・ご感想等）

【良い点】

・お二人の先生の声がけ（支援）がいつも子どもを後押しする言葉で、多く学べた。評価の支援に沿っていた。
・治田小の形、色のとらえ方がとてもすばらしい。子ども達の育ちに見て取れた。
・治田小の若い先生方のチャレンジに刺激をいただいています。今回見させていただいた子ども達が差レアに成長した１１月の表現が楽しみです。
・プリントが配られたら「ありがとう」、発言には拍手など、日々の学習を大切にしていくことも是非継続を。
・どちらも夢中になれるすてきな題材だと思う。
・低高両方見られるのはありがたいので、本番も是非そうしていただきたい。
・神田先生、導入の子どもへのおろし方、わかりやすく端的でスムーズでした。子どもが何を発見し何を感じているかをまた引き続き見ていかれるときっと楽しくおもしろい活動になっていくと思う。子どもっておもしろいですよね。
・木下先生の言葉がけ、お人がらが６年１組の子ども達との信頼関係につながっていると思った。適切なタイミングでの声がけ、良さをぱっと見つけて声をかけるところ、子ども達とのあうんの呼吸があるように想い１月が楽しみです。
・３年生も６年生も生き生き表現している姿がすばらしいと思った。
・「ふるさと治田」治田小を愛するために授業にもつなげて研究推進をされていることはとてもすてきなことだと思う。その単元に向かう必要感、地元を大切にする愛する…これをつける力、学びにどうつなげていくかを考えていきたい。

【課題】

・制作の「思い」（どんなイメージがあったか）を子どもに語らせたい。
　自己のイメージをふくらませるのにつながる。→意欲を持てる。
・「ふるさとで楽しく子どもアート」の「ふるさと」と言っていくのであれば、作品に対する子ども達の思い願いがよりはっきりしてこないといけないと思う。小学校ではあまり願い思いを大切に考えないことも多いので、難しさもあるかと思う。最初からすぐふるさとでなくてもかまわない。千原先生の最後のご指導を参考にしてください。
・座席表には、図工美術の養いたい見方・感じ方などの視点で実態を記入したい。つまずきへの支援も大切だが、その子がどんな姿になるのを願って授業をつくるのか具体的なイメージにできるとよい。
・子ども達の想いやイメージを言葉にしていくことで沢山の見方や考え方が広がると思う。楽しみです。頑張って下さい。
・指導案形式で、題材目標「学びに向かう力・人間性等」→「主体的に学習に取り組む態度」「評価」となるはず。
　感性、思いやり等自己評価を抜いて観点として位置づけていただけるとよい。
・主眼のあとに、指導事項の番号を入れていただくと指導が明確になる。
・３年生も６年生も「やりたい」気持ちにあふれていた、いい題材だった。どちらもイメージをふくらめるための題材として面白いと思う。
　題材の紹介で終わらないために、今後、イメージをふくらめるための手だてについて研究を深めていけると良い。
　例：学習活動の人数（個、ペア、グループ）
　　問い返しのあり方（つける力に応じた声がけ、問い返し）
　　視点をもつヒントになるような鑑賞　など

・「おもしろさ」と「ふるさと」を結びつけて動画制作を楽しんでほしい。

４　小学校：指導者　指導主事　千原　厚先生より

３年生　ワクワク感のスタート　この授業を通して、自分たちっていいんだと思える。

小学校の造形遊び
表現Aだが、セットで資質能力を育てていく。
表現でやったものが育てていく。
造形遊びから入っていく。次につなげていく。
初めて絵具をふれる。
本時、どんな資質能力を育てていくか?

造形遊び　様々な並べ方。色からか、規則性か、
緑の廊下から緑色、黄色のペットボトル　緑が４つ、黄色、と規則性に
暗いところには明るい色。明るいところには好きな色。
グラデーションは、みにくかった。
どんな視点で並べたのか?
「だからきれいなんだね。」と次時。「この並べ方だからきれいなんだね。」
「この並べ方はどう？」

６年生
ムービーメーカーで作ったのは、すごい。提案性の価値はある。
使う理由。
他の表現方法だったらできなかったか?
タブレットだから、できること。

思考錯誤が連続してできる。削除が簡単。タブレットの価値。
画面構成。区切られた場所での見え方　他の人に伝えていく表現方法。自分の考えを人に伝える。

３年：空間に働きかける。

６年：人に伝えていく。人に見せたいを意識してやったのか?
本時、自分がどうみえるか?
使うこと、人に伝えるを意識して明確にしていくこと
表したいこと、子どもの考えはやりながら変更していく。黄色のペットボトルからランダムに保障していくことがすばらしい。

おもしろいの中身、おもしろさを感じさせる理由。できること。どう思考し、ありえない動き。今日の子どもの姿からもう一度、いくつもの方法があるけど、どうする？見通しをもって活動

色分けした後、その色は自分にとってどんな意味を持っているのか、どうして分けたの？
この渋い色から次の絵具に入っていく。

質問：１年生に見せるというのは、最初の単元をつらぬく学習問題が必要か？ない方がいいか?
題材をつらぬくテーマ
まず素材と触れる時間を十分に活動する時間を大事にする。
その中で、そういう意識をつなげていく。
子ども達にどういうことをしたいのか?
体験をしたことができたことから、問いが設定される。
素材と触れ合っていく中で、問いができる。

今日の造形遊びでどういう資質能力を求めていくかで、場所を絞っていくかが決まっていく。

５　小学校：吉池校長先生より

図工、子ども、なぜそのように並べたのか？言えない。

言語化は、造形活動から、自分の活動を言語化できるような学びを。

校長室前の廊下　校長先生を意識してあの色アジサイの色。アルカリ色

色の幅、いろんな色がある。　涼しいいい感じだな。生活を豊かにする。

言葉がけ　　どんなグループ分けしたの？どんな形にしたの？　と問いかけして意識づけていく。

今日、こんな服装したの？　材質、形、色、肌ざわりなどいろいろ出てくる。

造形的な見方、考え方を働かせていく。

こちらから見れる視点がないといけない。どんな色、形をしているか？

問いをもって見ていく。何をやっているんだろう？と問いを持ってみていく。何をしているのか？を見る。

どうアレンジしているのか？

７　美術（中学２年）授業「ふるさとの土からつくるマイカップ」（８月）

主眼：地域の土を粘土に混ぜ、田毎焼に挑戦し始めた子どもたちが、マイカップの制作をする場面で、アイディアスケッチの構想、師範作品、友だちの工夫をもとにイメージ通りの「全体の形」（「とっての形」）「装飾」になるように成形することを通して、思考錯誤しながら自分の目指す形にしようと追究することができる。

・授業者から

粘土に触ったのは昨日から、苦戦していた。なじめない姿もあった。コップの形になったときにみんなが集中してやっていて。力が入ってきた。それぞれの人がこれから工夫をしていく。周りの人を見ながらも作品を作れていてよかった。早い人は、模様をつけたり、とってをつけたりと学習カードを見て、作れていた。

ICT 機器の活用は、ジャムボードから意見を出してもらう予定だったが、学習カードで一回で見せた方がわかりやすい、共有しやすいので、本番製作時間も取りたいので活用は準備もしたが控えた。授業を進めていくうえで適切なところで使用したい。

・質問および討議

田毎焼、２時間目。田毎焼は、子ども達は意識して入っているのか？

とってをつけたり、模様ととっては？

田毎焼と定義して、いくつか条件を付けた。色は、３色学年カラー、隣の佐野川の土を採取するところからやる。どういうアイディアでやっていくかを考えてきた。自分たちの土が入っている。取ってきた土が入っているから、黄色い。ブレンドは、先生がしたが、生徒もしたが固くなってしまうので、調合した。

・泥、粘土質、焼成したら割れないか？混ざりきってない部分は、大丈夫か？

そのまま焼ければ格好良いが、佐野川の土は全体の８パーセントぐらいなので、大丈夫。

・不織布や手ぬぐいとか一枚引いておくと、板につかない。不織布や棒に水分が持っていかれる。スプレーで次回も乾かないように。

どべの使い方。手順の説明のときに。

・美術３５時間。１回でカップになり、装飾１回ぐらい。立ち上げは１時間できびしいか。

底と平面のヘリをどこにつけるか、立ち上がりが難しかった。

ある程度自分の造形に対する造形に行くまでには、早くする。

形にこだわりは大事にする。

思いをこめさせる場面。どうするか？時間が無尽蔵にあればいいが、どの場面で追究させるか？

何をもって納得とさせるか？

想い、納得をどういうふうに感じ取れたか？
納得いく追究をしていたらどういう姿か？
見るのも立体的に見ている姿。
こういう姿で私は評価していました。
納得の姿。学習カードが出ていれば。思いの評価でいったら、一生懸命立ち上げてた子も。

造形行為から読み取るしかない。作品や行為から読み取る。造形物や活動から読み取る。

粘土と同じ高さで見つめる視線。手など向き合っている。手も道具などで体を使ってやっていた。
想い…たたら、板づくり、やり方。教え込むところかな。
手びねりはアウト。このやり方でやるんだよ。なんでもいいよ。だと作り方も自由にしてしまうと、狙いがぼやけてしまう。

想いは、形か模様か、とってか。

立ち上げられなかった子が粘土と格闘してやったが、自分の想い造形だと、立ち上げは簡単だとよかった。
切ってつなぐところもできなかった子もいた。
形になるのが大前提、とって、書く、形が個性。大元の形にはめて、その後が個性の勝負。

・本番の中３での陶芸でのねらい。中２との違い。
中３で一番最後の制作。卒業制作。学校の３年間の思い出をこめる。どの子も追究できる。
形はいろいろ出てくるんではないか。中２では、やっていない。過去に箸置きを作ったことがある。
板づくり、手びねりは、初めて。

８　中学校：指導者　指導主事　千原　厚先生より
・作成する相手意識について
１年生、身近な人々
２・３年生、あったこともない人もイメージする。使った人がどう思うのか。
佐野川の土は大丈夫か？河川法。くさい川の土で本当にカップに使いたいか。マイカップかは吟味。

　自分が表したい思い、工夫するところの狙いはどこか？考えさせる時間は。
カップを作ったうえで。とってか、模様か、口当たりのなめらかさかなど製作時間を考えたうえで、立たせたうえで、狙っていくといい。

知識・技能…器を作るための知識か美術の知識か、
様々な工夫、友だちも見る必要がなくなる。
様々な視点、追究させたい、取り組みの想い。こういう工夫をしたい

この時間に子ども達に何の力をつけたいか。
子ども達に作る必要感をどうもたせるか。
例えばランプシェードなら、姨捨の田んぼのキャンドル、蔵の町、地域につながっていく。
地域らしさを出したい。蔵の街、菊花展、田んぼ、

９　事前研究より、見えてきた子どもの姿（小学校・中学校）
【事例１】色水を作り、自分たちでグラデーションの並べ方を考えて置く姿。

ペットボトルで色水を混ぜて作った子ども達が、作成したペットボトルを図工室の後ろの机に置くときに、ただ置くだけではなく、H さんや T さんが「同じような色で置こう」と言い、やり始めたところ、R さんや友だちも並べはじめ、クラスのみんなも一緒に並べはじめ、緑でも「濃いのはこっち」「色でわけて」と微妙なグラデーションにもこだわって並べていく、同じような色でもちがいがあることや色をグラデーションで並べるときれいなことに気付いていった。

【事例２】色水のペットボトルを「５０周年」の文字に並べ、学校をお祝いしたいと自分たちから活動する姿。

図工室の後ろの机に並べたペットボトルを、図工室前を高学年の子どもたちが「すごい」「きれい」と言いながら通る姿を見て、T さんが「もっときれいに並べよう」と言い、友だちも「見てもらえるのがいい」と言い、朝や休み時間、清掃終了後の時間等に、自分たちで並べ始めた。棚に色ごとに並べながら、残ったペットボトルで、「５０周年だから」と、色を意識しながら「５０周年」と並べ始めた。子どもたちの目の輝きから、学校をきれいにしたい、お祝いしたいという気持ちが芽生えてきていることを感じ取ることができた。

【事例３】校舎に色水のペットボトルを場から発想した色や形、間隔などを考えて、リズム感を出して置く姿。

A さん、K さん、H さんは、ペットボトルを見てもらいたいところに並べる活動が始まると、急いで棚に行き、たくさんある中から青色や紫色のペットボトルを手に取り６本抱えながら、児童玄関に行った。そして、棚の上に置きながら、詰めて置く H さんに、A さんが「(下駄箱)１こ飛ばしにしよう」と提案し間を開けて置きなおした。色も青系、紫系の色を交互に置き始めた。それを見て H さんやKさんも「いいね」と１個飛ばしの間隔で、色を青系、紫系を交互に置き始めた。「きれいだね」「いいよね」と遠くから見てつぶやき、急いでまた図工室にペットボトルを取りに走っていった。

他の緑廊下では、床面の緑色から、緑色と黄色を交互に置いたり、低学年の玄関や廊下には、「小さいから小さいペットボトル」「黄色と青色」を交互に等、場所や学年の個性から連想した色や大きさを考えて置く姿も見られた。このように、学校１階全てを使い、友と関わりながら、場や形、色のリズムを感じつつ並べていく姿が見られた。

【事例４】友と関わりながら、自分たちの発想を広げていく姿

導入のときから、R さんと K さんのペアは、「すごい」と目を大きく開いて、輝かせてみていた。活動が始まると、R さんがタブレットで撮り、少し動かして撮る。とやり始め、K さんも手を出し、少しずつ動かしていった。恐る恐る保存し、動画を再生すると、「もうおもしろすぎる！」と自分たちが撮った作品にびっくりしていた。そそして、再生が終わると手を止めることなく、次の撮影を始めた。今度は、恐る恐るではなく、「動かさないようにして」「たくさん撮ろう」と活動時間いっぱいまで、どんどん撮影していった。最後のまとめでは、「コマを多くする」「動かさない（固定）」「動きを細かくする」というポイントに活動から自分たちで気付くことができた。

他のペアも、友とアドバイスし合いながら、こうすればいいかもという発想を広げながら主体的に学ぶ姿を見ることができた。

【事例５】アイディアスケッチをもとに、イメージ通りのマイカップを目指して制作する姿

制作が始まると、H さんはアイディアスケッチを見て、粘土のかたまりから３分の１ほどを取ると、丸めて細いところから下に広がった部分を作った。うまく立つとほほえみ、残った粘土を厚さ１ｃｍほどにのばすと、その上に長方形の型紙を置き、粘土べらで切りぬいた。長方形の粘土を円筒状に丸めながら指でそっとおさえながら、つないでいった。水をつけ、指でなぞりながら、なめらかに表面がなるまで目を近づけて何度も指の腹でなぞっていた。そっと手を離し、形がゆがまずに立つと大きく息をはいて、ほほえんだ。他にも、アイデアスケッチをもとに、自分の考えたマイカップにしようととってを２つ付けたり、形ができた後、アイディアスケッチをもとに丁寧にデザインを彫り込んだりと、イメージ通りの「全体の形」「とっての形」「装飾」になるように試行錯誤しながら自分の目指す形にしようと取り組む姿が見られた。

１０　秋に向けての研究方向

【小学校】

治田小学校の子どもたちは、春から学校の５０歳をお祝いし、「今までありがとう。∞これからもお願いします。」の気持ちで様々な活動や学習など、常に気持ちの土台に据えて生活をしてきた。

そして、１０月６日には、５０周年記念式典を行い、全校で野外合奏をしたり、今までの学びの発表を見合ったりして自分たちの学校の誕生日をみんなでお祝いし合うことができた。

式典後も、５０周年のフォトコンテストなど、気持ちはつながっている。

【感想より】５０周年式典をやって、思ったことがありました。それは治田小学校が、５０歳まで持ち続けてきたということです。わたしはこの学校が好きなので、もっともっときれいにしていきたいと思いました。１００周年までも、この学校が残ってほしいと思いました。そして、次の１００周年でも、素敵な１００周年記念式典を行ってほしいと思いました。この学校で５０周年式典ができて、わたしはとても楽しかったし、嬉しかったし、緊張もしました。

そんな子どもたちの「自分たちの学校」＝「私たちの生活の場」という「ふるさと」を、もっときれいにしたい、もっとこうしたいなど、子ども達の気持ちを核にして、やり直しができる素材や一人一台端末などを用いて、友と関わりながら活動し、更にイメージを膨らませていく学びの姿を求めて、低学年と高学年で題材構成を考えていきたい。

【中学校】

文化祭も終わり、生徒達は自分の進路と向き合ったり、中学校生活を振り返ったりする中で、支えてくれた仲間や家族、学校、地域など他者への感謝の気持ちが生まれている。

そんな中学校３年生に、地域に感謝の気持ちや地域を盛り上げたいという思いを持って取り組めるような題材として、地域のお店などに飾ってもらえるようなという「相手意識」を大事にした題材を考えていきたい。

そして相手を意識することで、制作をする前に、生徒一人一人が「ふるさと」について考えたり、多様な人が使うユニバーサルな視点等も考えたりする過程を大事にしていきたいと考えている。

【小中共通して】

題材構成や素材の研究だけでなく、漠然としたイメージや考えを制作物や言葉として表出できるような、発問や問い返しなどの手立ても大切に研究を進めていきたいと考えている。

【イメージや考えを表出できるような手だてと大切にしていきたい点】

◎学習課題の場面で、自分の思いや願いを見つめ、語ることで友からも高め合う。
学習カードや下書き等でイメージを深めていく。

◎活動中、まとめの場面で、子どもの思いや願い、工夫を認め、ほめ、共感していく。

そのために、

○言語化、表現化→国語力、語彙力、→【読書・書くこと】

→【☆子どもの考えを引き出す発問・問い返し】

○思い・願い→主題性→【どういう力をつけたいのか　この時間につけたい力を明確にする】